08 オートメーションデータを グラフィカルに書き込みたい

オートメーションを利用して、急激なフェーダーの動きや正確な位置でのミュートを行いたいことがあります。こういった書き込みはリアルタイム操作で行うのが難しいため、トラック領域上にオートメーションデータをグラフィカルに表示し、マウス操作などで書き込むのが現実的です。また、リアルタイムで書き込んだオートメーションデータを表示しエディットすることもできます。

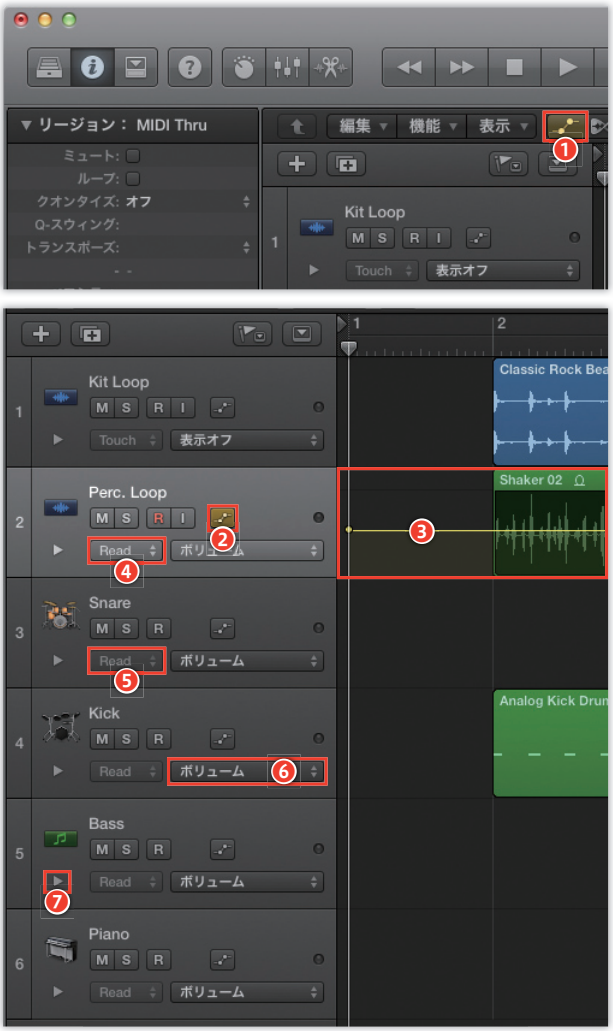
HowTo メインウィンドウのトラック領域にオートメーションデータを表示するには

オートメーションボタン表示ボタン❶をクリックし点灯すると、トラックヘッダに**オートメーション**ボタン❷が表示され、すでにオートメーションが書き込まれている場合はトラックにその内容を表示します❸。

オートメーションボタンがオン（デフォルト）になっていると、リアルタイムでのオートメーションの書き込みと、記録されたオートメーションの実行が可能になります。

オートメーションモードはメニュー❹で選択します。**オートメーション**ボタンがオフの場合、トラックヘッドでのモード表示がグレーアウトします❺。

オートメーションボタンの下にあるメニュー❻で、トラックやオートメーション表示レーン上に表示するパラメータ（つまみ）を選択します。☒❼を下向きにして新たなオートメーション表示レーンを開き、異なるパラメータを表示できます。



再生しながらリアルタイムでオートメーションを書き込む方法については「オートメーションデータをリアルタイムで書き込みたい」（P325）を参照してください。

Auxチャンネルでオートメーションを利用する際に、対応するAuxトラックがない場合は、Auxチャンネルストリップの上で右クリック（control+クリック）し、メニューから**トラックを作成**を選んで、そのAuxチャンネルストリップに対応するAuxトラックを作成します。また、ミキサーのローカルメニューから**オプション→選択したチャンネルストリップのトラックを作成**を選択してもAuxトラックを作成できます。

ソフトウェア音源トラックでは、コントロールチェンジの7（ボリューム）と 10（パン）のメッセージは、チャンネルストリップのフェーダーとパンポットに対する信号になります。したがって、MIDIドローとオートメーションの両方から、同じコントローライベントを利用してフェーダーとパンポットをコントロールできることになります。両方に異なる値を書き込むと、動作が混乱する元になりますから、いずれかを選択して使用するようにするといいでしょう。

POINT

デフォルトでオートメーション表示できるパラメータは、ボリューム、パン、ソロ、ミュートの４種類だけですが、その他のパラメータも、いったんリアルタイムでオートメーションデータを書き込むと、以降選択可能になります。